

平成31年度 佐賀県立金立特別支援学校 学校評価計画

1 学校教育目標 ○ 児童生徒の一人一人の状況(障害の状態や発達段階、特性)に応じた教育を実践する。 ○ 児童生徒が「明るく」「正しく」「たくましく」生きていく力を育成する。	2 本年度の重点目標 (1)個に応じた教育の実現を図り、生きる力を育む。 (2)児童生徒の進路指導に努め、卒後の自立と社会参加を目指す。 (3)健康・安全教育の充実を図ると共に思いやりの心を育て、豊かな人間性を育む。
------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

3 目標・評価

(1) 個に応じた教育の実現を図り、生きる力を育む。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●教職員の専門性の向上	①個別の指導計画に基づく指導の充実 ②小中高一貫した自立活動の充実 ③職員研修・研究の充実	①個々の児童生徒に応じた適切で具体的な目標と手だてを設定し、指導内容の充実を図るとともに、適切な評価を行う。また、新学習指導要領の改訂に伴い、様式の見直しを行う。 ②実態把握から指導内容設定までのプロセスを明確かつ簡潔に構築する。 ③時機を得た研修内容を設定することで、今必要とされる知識や情報の全職員への周知定着を図る。 ③個人で取り組む研究形態で校内研究を行うことにより職員一人一人の授業実践力の向上を図る	①個別の指導計画に基づいて実践・評価し、ケース会等で改善に取り組む。評価については、授業終了後や単元ごとに行い、評価の質を高める。また、全職員の共通理解を図りながら、様式の改訂を行う。 ②学習指導要領解説を基に研究を進め、結果について各学部で検証を行う。 ③研修の内容に合わせて内容に精通した外部講師を招いての研修を行う。 ③研究組織の再編や内容、方法の精選を行う等、校内研究に取り組みやすい体制を整える。
教育活動	○教育の質の向上に向けた支援機器やICT活用教育の実施	①支援機器や学習用PC、電子黒板等を利用した学習支援研修の充実 ②情報モラル教育の実践	①児童生徒の実態に即した支援機器やICT機器の選択と活用を図る。 ②児童生徒の実態や発達段階に応じた情報モラル教育の充実を図る。	①ICT機器の利活用に関する授業研究会を実施し、ノウハウの蓄積と普及に努める。 ①支援機器室の整備を図り、支援機器を活用しやすい環境を整備をする。 ②インターネットの利用について、その適切な使い方について指導を行う。 ②日常生活の場面において、家庭や関係機関と連携を図り指導助言を行う。

(2) 児童生徒の進路指導に努め、卒後の自立と社会参加を目指す。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●進路指導	①将来の自立と社会参加を意識した指導の充実 ②学校、家庭、関係機関が協働して進めるキャリア教育の推進	①各学部・学年に応じた進路支援に対する教職員の意識を高め、将来を見通した指導に努める。 ②学校、家庭、関係機関との一層の連携を推進し、キャリア教育の取組について共通理解を図る。	①職員研修を行うとともに、進路指導に特化して資料を集約し、職員が活用できるようにする。 ①進路に応じて必要な社会的スキル等の基本が身につくように、職員が意識するようにする。 ②学校だよりやホームページなどでの情報発信を行う。
教育活動	○地域との連携	①交流及び共同学習の推進 ②学校情報の公開	①交流及び共同学習を積極的に進めていくことで、地域の方々と触れ合いの機会を増やし、将来の地域生活の基盤を培う。 ②ホームページにより、学校情報の積極的な公開を図る。	①正しい理解の促進を図るために、交流及び共同学習の授業を実施する前に、相手校に対して十分な情報提供を行う。また、これまでの交流記録や新聞掲載記事等の資料を活用し、より連携を深める。 ②支援機器室の紹介や自立活動教員の紹介などの情報を公開する。
教育活動	●志を高める教育	①自らの夢や社会的自立の目標の実現に向けて努力する児童生徒を育成する指導の充実	①社会的自立につながる児童生徒のコミュニケーション能力を高める。	①授業の中に、集団活動を意識的に取り入れる。 ①交流学習に積極的に取り組む。 ①挨拶を積極的にする。 ①授業の中に、自己表現力を高める活動を取り入れる。

(3)健康・安全教育の充実を図ると共に思いやりの心を育て、豊かな人間性を育む。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○安全な教育環境の構築	①危機管理意識の向上と体制の整備	①職員の危機管理意識向上に効果的な訓練、研修を行う。 ①ヒヤリハット・アクシデント報告の伝達や月報の回覧で情報を共有し、危機管理意識が向上したと感ずる職員を80%以上にする。	①実際に対応できる力を育成するために、実技等の実践的な訓練や研修を実施する。 ①前月の月報を各部署で回覧する。 ①昨年度よりアクシデント事例を減らし、ヒヤリハット事例を増やす。
教育活動	●いじめの問題への対応	①いじめの防止と早期発見	①毎月学校生活調査を行い早期発見に努めるとともに、保護者や関係機関との連携を図り、防止に努める。 ①多様なケースに対応できる校内の相談体制をつくる。 ①児童生徒会活動の充実を図る。	①毎月の学校生活調査といじめアンケートを各学部で年2回実施し、学校生活での実態を把握し、情報を共有する。 ①教職員の意識の向上を図るために、いじめ防止対策委員会を定期的に開催し、いじめの防止に取り組む。 ①児童生徒会の活動目標等に関連項目を盛り込む。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	●地域支援	①特別支援教育のセンター的機能の充実	①地域の学校において、特別支援教育に関わる教職員に対して相談支援に努める。	①特別支援教育コーディネーターを5名配置し、要請に基づき派遣し相談支援を行う。また、必要に応じて専門性のある教職員も同行し相談支援に当たる。 ①相談支援に関する情報収集及び情報提供を行う。
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	①時間外勤務の縮減 ②教職員の連携促進	①全職員の時間外勤務月平均時間を20時間以内に抑える。 ②組織的な学校運営を行い、業務の効率化と分散化を図り、個人への仕事集中を防止する。	①定時退勤日の完全実施。 ①定時退勤推進日についても定時退勤を強く促す。 ②運営委員会、学部主事会等を通して、学部間、分掌部間の連携・協力体制を強化する。